



逆境は技術を進化させ、人を成長させる

厳しい自然を相手に、精神的かつ肉体的にも強靭さが求められることから、「世界一過酷」といわれるダカール・ラリー。サウジアラビアでの開催3年目を迎えた2022年大会に、日野自動車は菅原照仁ドライバーとともに「日野チームスガワラ」として参戦。中型トラック「HINO600シリーズ」をベースに、日野自動車初となるレース用ハイブリッドシステムを搭載した車両で挑みました。

砂丘や岩場が連続する過酷なコースにおいて、ドライバーやナビゲーターの技術的・確かな判断、メカニックたちの迅速・確実な整備によって13日間を走破。トラック部門総合22位でフィニッシュを果たすとともに、1991年の初参戦以来、連続31回目の完走も成し遂げました。

日野自動車は、レースを通じ新たな技術革新に果敢にも挑むとともに、携わるスタッフの成長を支え、ここで得た経験を商品やサービスに活かしていきます。

ハイブリッド車両を投入 新たな挑戦の幕開け



今回の参戦車は、レース用ハイブリッドシステムと高馬力エンジンを搭載し、過酷な自然環境の中、ライバルに挑みました。

サウジアラビアを舞台に激闘が繰り広げられました。



ダカール・ラリー2022 リポート

31回連続完走! 砂漠を駆けるハイブリッド

激闘の13日間

激闘の様子はこちらから



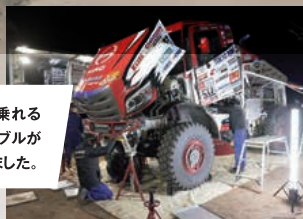
START!

ステージ 1

[ハイル → ハイル]
競技区間333km



砂丘越えや急傾斜のダウンヒル、スピードに乗れる区間など変化に富むコースを走破。細かいトラブルがあり、メカニックたちは徹夜で整備作業を進めました。



ステージ 2

[ハイル → アル・カイシュマ]
競技区間338km

ステージ 3

[アル・カイシュマ → アル・カイシュマ]
競技区間255km

ステージ 4

[アル・カイシュマ → リヤド]
競技区間464km

今大会の最長ルート。ハイブリッド制御はレース専用チューニングのため、本番を走りながら調整していきました。

ステージ 5

[リヤド → リヤド]
競技区間345km

ステージ 6

[リヤド → リヤド]
競技区間347km

ハイブリッドのアシスト効果を確認しながら、砂丘も問題なくクリア。メカニックたちは後半戦に向け、点検整備の入念な打ち合わせを実施しました。



休息日

車両と人員をリフレッシュ。後半戦に向けて万全の態勢を整えました。

ステージ 7

[リヤド → アル・ダワディミ]
競技区間401km

ステージ 8

[アル・ダワディミ → ワディ・アド・ダワシル]
競技区間394km

砂は柔らかく、埃も酷い中での厳しい戦いが続き、タイヤがバンクするトラブルもあったものの無事走破。

ステージ 9

[ワディ・アド・ダワシル → ワディ・アド・ダワシル]
競技区間287km

ステージ 10

[ワディ・アド・ダワシル → ビーシャ]
競技区間374km

ステージ 11

[ビーシャ → ビーシャ]
競技区間345km

ステージ 12

[ビーシャ → ジェッダ]
競技区間166km

FINISH!

菅原照仁 ドライバー

「約2年間を掛けて開発したハイブリッドシステム搭載車両は、多くの方々にサポートしていただいたプロジェクト。トラブルの発生により期待にお応えすることができずでしたが、問題の出たところは全てラリーの本番を走らないと確認できない部分でした。今回の結果は将来につながるものだと思います」

菅原照仁ドライバー(右から4人目)を中心に無事ゴールした選手とスタッフたち。

